新校舎建築二期工事へ

旧校舎解体本格化

新校舎の建築が着々と進んでいます。5月の連休に「管理棟」（職員室・事務室・保健室）、6月下旬に「中学棟」が完成し、引っ越しを終えました。今度できた新校舎は「中学棟」と呼ばれていますが、「高校棟」が完成するまで、2階に高校1年生、3階高校2年生、最上階4階に高校3年生が入居しました。1階に食堂とポアトラホール（大教室の機能と多目的ホールの機能を併せ持つ広いホール）ができました。

新校舎の教室は、今までとその配置が異なり、ひと学年の教室が、幅10メートルもある広い廊下を挟んで向かい合わせに並んでいます。学年の廊下には生徒の個人ロッカーとシューズボックスを置き、生徒は登校してきたら革靴のまま自分の学年フロアまで行って、靴を履き替えます。また、学年フロアには「ラウンジ」を設け各学年の憩いの場を配置しました。

2014年春のグランドオープンに向けて、第二期工事、旧校舎中央部分解体、体育館棟新築工事が始まりました。

ロッカーのある教室前廊下

教室内

学年ラウンジ

食堂

中学棟

職員室棟の屋上庭園と旧校舎

職員室

退任・新任の先生

退任

森　孝（もり・こう）

昭和19年4月23日生
昭和45年4月1日～昭和47年3月31日（社会科非常勤講師）
昭和47年4月1日～平成20年3月31日（社会科教諭）
平成20年4月1日～平成24年3月31日（社会科非常勤講師）

松下　廣（まつした・ひろし）

昭和23年2月28日生
昭和46年4月1日～昭和49年3月31日（社会科非常勤講師）
昭和49年4月1日～平成24年3月31日（社会科教諭）

新任

山口　幸（やまぐち・こう）

44期卒業　英語科講師
現在　中学二年生の英語Ⅰを担当
中学二年D組の副担任
中学バスケットボール部顧問

在校生の間には自分が聖光学院の教壇に立つ日が来るとは思いもしませんでしたが、縁あって4月より英語科講師として働かせていただくこととなりました。卒業から5年とまだ日は浅いながらも、着々と建て替えの進む校舎を前に過ぎゆく時の早さを実感しています。

平松　恭詩朗（ひらまつ・きょうしろう）

44期卒業　宗教科講師
現在　中学二年生の宗教を担当
聖書研究会の指導を担当

今年の春より、非常勤講師として勤務しております、平松です。本校を卒業して早5年。再びこの学び舎に戻ってくるとは夢にも思っていませんでした。職員室で恩師と肩を並べて仕事をするというのは何とも奇妙な感じがしております。

また、校舎の方も移転作業が進み、新しい校舎が完成してきています。美しく、開放的な職員室、及び教室で今後仕事ができるということはとても幸運なことだと感じております。

さて、そのような場で、私は宗教科の担当となりました。正直な今の心持ちを申し上げますと希望と不安が入り混じっているような状況です。それは、宗教とは人間の生について関わってくるからです。どこまでも自由な思考活動の中で授業をしながら、最終的に、生きることに対する核を獲得させねばなりません。そのような人間形成の一部を担う教科だからこそ、やりがいと責任感があふれています。

一生涯を尽くして真摯に取り組んでいきたいと思っております。

24年3月31日（社会科非常勤講師）

《教わる側から教える側へ》という立場の転換に戸惑いながらがむしゃらに過ごすうちに、気がつけばもう1学期も終わってしまいました。この4ヶ月は、自分にはこの子たちに何が伝えられるのだろう、何を教えるべきだろう、と自問を繰り返す日々でもありました。

しかし、ついつい《教える側》の意識が前に出てしまいそうになる一方で、日々の授業や部活動の中に生徒から教わることのいかに多いことか、気づくこともできました。セネカの言葉にDocendo discimus.（我々は教えることによって学ぶ）というものがあるそうですが、この賢人の言葉を噛みしめ受けとめられるようになる程度には濃密な4ヶ月であったようです。諸先生方から、生徒たちから。―《教わる》ことにこだわりながら、聖光学院という学びの庭に貢献できれば幸いと考えています。